



JICA保健医療ニューズレター 「保健だより」第67号



2024年12月6日発行

冬の訪れを感じる季節ですね！皆さまご体調など崩されていないでしょうか。どうぞ、暖かくしてお過ごしください。

今号の保健だよりは、研修の実施報告が多く盛り込まれております。ウクライナの国別研修をはじめ、タンザニアで実施されました5S-KAIZEN-TQMIに係るアフリカ地域広域セミナー、日本の食育を活かしたマレーシアの給食に関する国別研修や妊産婦に係る課題別研修の他、ブータンからの本邦視察等を掲載しております。是非ご覧ください。

目次

- ◆ 保健医療・栄養改善JGAプラットフォーム情報・意見交換会 2
- ◆ ウクライナ国別研修(災害医療)

- ◆ 5S-KAIZEN-TQMIに係るアフリカ地域広域セミナー 3

- ◆ 2024年度マレーシア国別研修「LEP2.0 給食ガイドライン開発」 4
- ◆ ブータンでのバイオバンク構想に関する本邦視察プログラム

- ◆ <母子クラスター×課題別研修>「妊産婦の健康改善」コースで色々やってみました！ 5

- ◆ 保健グループ What 's Up 6
- ◆ 編集後記

2024年8月21日、JICA人間開発部は「保健医療・栄養改善JGAプラットフォーム情報・意見交換会」をオンライン開催しました。当該分野に係る民間企業、研究機関、NGO、自治体等の国内パートナー約180名が参加し、課題別事業戦略である「JICAグローバルアジェンダ」(JGA)及びそれに紐づくクラスター戦略に基づく事業推進について、情報・意見交換を行いました。

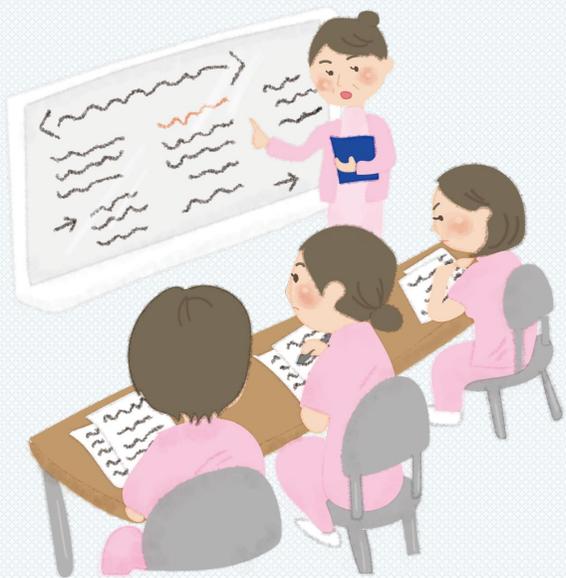
本意見交換会の前半では、当部よりJGAの全体像を改めて説明するとともに、JGA「保健医療」のうち新規に作成された「感染症対策・検査拠点強化クラスター戦略」及び「医療保障の強化クラスター戦略」、またJGA「栄養改善」のう

ち「ライフコースを通じた栄養改善クラスター戦略」の内容について紹介しました(各クラスター戦略詳細については、[保健だより65号\(jica.go.jp\)](https://www.jica.go.jp)を参照)。

会の後半では各クラスター戦略についてブレイクアウトルームに分かれ、各クラスター戦略下の実際的な取組みや目標や指標のモニタリング手法等について、関係者の皆様と活発に意見交換を行うことができました。

本意見交換会はパートナーの皆様との間で開発課題に関する意見交換を促進するためのプラットフォームとなることを目指し、今後も定期的に開催していきます。

(保健第2チーム 黒部)



ロシアの侵攻により、ウクライナでは大規模被害を受けて患者への迅速かつ効果的な保健医療サービスの提供の重要性が高まっており、これを中心的に担うウクライナ災害医療センターの機能の強化や、非常時の医療を担う人材の育成が急がれています。これらの課題に対応するため、JICAは、ウクライナに向けて災害医療分野に関する国別研修を開催しており、初回の研修が8月10日から16日にかけて、JICA東京センターで実施され、同センター所長を含む5名が来日しました。

本研修は、厚生労働省DMAT事務局の協力のもと実施されました。研修員は、日本の災害医療体制や情報システム、災害精神医療、被ばく者医療についての講義を受け、意見交換を行いました。研修員からは「ウクライナにおいてもデータマネージャーを育て、災害時のデータ分析ができるようにしたい」、「今まで遺族への心のケアについての体制は整っていなかったが非常に重要な分野だ」という声が聞かれました。



災害精神医療の講義の様子

また、被ばく者医療について学ぶために、原子力災害や放射線災害医療に知見を有する機関を視察しました。量子科学技術研究開発機構においては、研修員は、国内の被ばく者医療の体制や患者への対応について説明を受けるとともに、設備見学や放射線濃度の測定を体験しました。最終日には、今回の研修での学びを振り返り、特にウクライナで体制構築を進めるべき分野の特定や次回の研修の方針に関する議論を行いました。

日本の災害医療システムは、日本の保健システムに基づき、自然災害を想定して構築されていることから、ウクライナへの適用に当たっては、あらためて現在の課題を把握し、同国にとって最も適した形に応用する必要があります。第2回目研修は2025年2月頃を予定しており、今後の体制づくりについて、継続的に議論していきます。

(保健第1チーム 岸野)



量子科学技術研究開発機構での集合写真

5S-KAIZEN-TQMに係るアフリカ地域広域セミナー

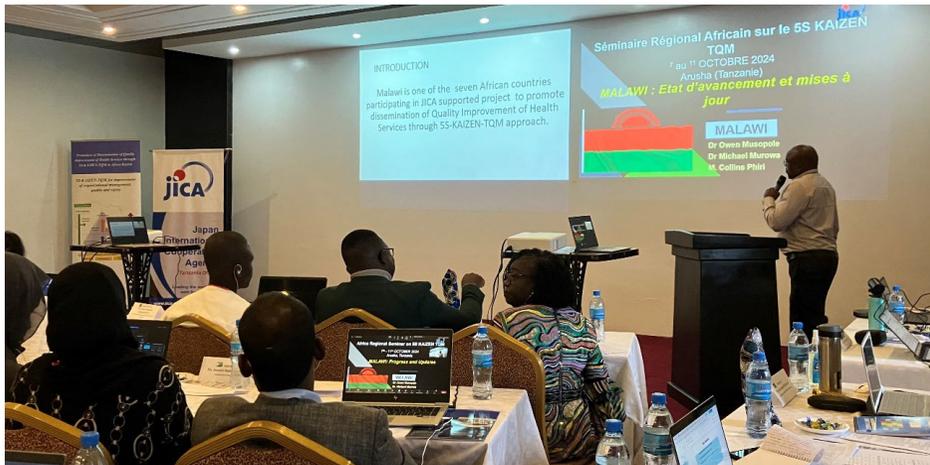


マダガスカルとセネガル参加者による質管理活動実施における問題解決についての協議の様子



現地活動視察時の様子

JICAは2024年1月から「アフリカ地域5S-KAIZEN-TQMを通じた保健医療サービスの質向上のアフリカ地域広域展開促進」(2024年1月～2026年2月)の個別専門家派遣を開始しました。2024年10月7日から11日までの5日間、本案件の広域セミナーがタンザニアで開催され、対象7カ国(エチオピア、ジブチ、セネガル、タンザニア、ベナン、マダガスカル、マラウイ)のワーキンググループ(以下、「WG」)から保健省及び対象病院関係者の3名ずつが参加しました。5S-KAIZEN-TQM活動の実績が長く、視察可能な施設や経験豊富なナショナルファシリテーターを多く有するタンザニアにて開催される本セミナーを通して、対象国が持続可能な活動について学びあうこと、また活動を継続するためのモチベーション向上へとつなげることを目的としています。



マラウイWGメンバーによる進捗報告



集合写真

今回の広域セミナーでは、各国WGによる活動進捗の発表が行われ、また、各国の課題に対してグループワークで協議しました。開催国のタンザニアからはこれまでの成功事例の発表もあり、参加者からは、「JICAの協力が終了してから活動を継続する時にどのような困難があったか。」「(自国が抱える)課題についてどのように改善したか。」等、質疑応答の時間を超過するほど活発な意見交換が行われました。

セミナー中盤では、持続的に5S活動が行われているタンザニアでの病院視察がありました。前半の講義で学んだ知識が実際の現場でどのように実践されているのか確認したことで、「病院全体で5S活動が実施されている現場に感銘した。」「今度は自国で活動視察できるように目指したい。」「自国で十分に活動できていると思っていたが、まだ改善できるところがたくさんあることに気づいた。」と多くの学びと発見に満ち溢れた様子でした。

最後には、セミナー期間中に学んだことを踏まえて活動計画を作成しました。活動計画の発表前日には、セミナー終了後遅くまで残って自国の進捗状況に合わせてWGメンバーと活動計画を練る姿が印象的でした。セミナー終了時には、今後の活動に向けて自分たちを鼓舞する様子が見られました。

また、本セミナーではプログラムの一部をオンラインで配信し、これから5S-KAIZEN-TQMを導入する国や既に実績のある国が、自国の活動状況と照らし合わせ対象国の取り組み事例を学ぶ良い機会にもなりました。

今後も、現地活動とオンライン会議等を組み合わせながら活動を続けていき、2025年には第二回広域セミナーを実施する予定です。対象国間の協力体制を築きながら、5S-KAIZEN-TQM手法を通して、対象国の医療の質向上を目指していきます。(保健第1チーム 島)

2024年度マレーシア国別研修 「LEP2.0 給食ガイドライン開発」が実施されました！

マレーシア保健省は日本の学校給食マネジメントや食育を学ぶため、2023年度より国別研修「LEP2.0¹給食ガイドライン開発」を実施しており、今年で2年目となりました。7月22日～8月2日の期間、東京、愛知、岐阜を訪れ、保育施設や給食センター等の視察、給食・食育に関する自治体の取組や国内の政策を学ぶ機会を通して、幅広く日本の取組を知ることができる非常に貴重な機会となりました。

今年度は、保健省や州保健局などからマレーシア国内の栄養に関連した政策や取組に携わる行政官、計10名の参加がありました。普段は異なる所属機関で働いている研修員ですが、本研修期間では、就学前施設における給食提供の在り方や子どもたちの発育・発達を意識した栄養実践の工夫等、共に議論し合う時間も持つことができました。

特に、マレーシアでは、異なるルーツを持つ人々が生活し、文化が融合した食文化や食生活を常に大切にしています。ま



だ就学前施設における給食提供のための国家ガイドラインは存在しないものの、このような日本の経験を学ぶ機会を通じて、マレーシアの文化や社会に適した自国のガイドライン作成を目指しています。

2025年2月から就学前施設における給食提供のパイロット事業の実施が予定されています。今年度の研修では、給食マネジメントに欠かせない重要な要素である衛生管理や食事の質の担保、月齢や発達に応じた食事形態と食育の実施など、昨年度に比べるとより実践的な内容について学びが深まりました。研修員は自国にこれらの知識と経験を持ち帰り、年度内の完成を目指して、マレーシアでの就学前施設における給食提供の基本的指針となる「給食ガイドライン」を作成中です。（保健第3チーム 氏家）

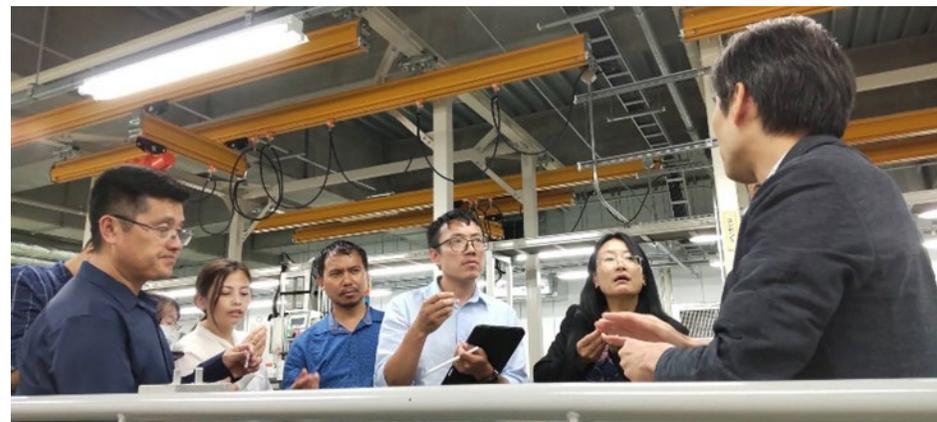
1. Look East policy (LEP2.0)の略: 東方政策

ブータンでのバイオバンク構想に関する 本邦視察プログラムを実施！

ブータン国「バイオバンクによる未来型医療・ヘルスケアの事業開拓にむけた情報収集・確認調査」の一環で2024年8月26日～9月7日に、ブータン関係者を招いた本邦視察プログラムを実施しました。本調査は、現在ブータンで実施中の技術協力「[政府のデジタル技術及びデータ利活用能力強化プロジェクト](#)」で進められているデジタルヘルスプラットフォームの構築のうち、特にバイオバンク(ゲノム情報、血液などの生体資料)の整備による健康増進、産業振興戦略に関する情報収集とニーズ調査を目的として実施されています。今回の視察プログラムを通じて、各省庁や病院、国営企業などブータン側関係者9名が日本を訪れ、神奈川県庁、東北メディカル・メガバンク機構、鶴岡サイエンスパーク、神戸医療産業都市推進機構、神戸大学医学部附属病院バイオリソースセンターや国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)等への訪問及び関

連する本邦企業との意見交換を行いました。また9月2日(月)には公開セミナーを開催し、ブータンでのバイオバンク整備を通じた具体的な連携アイデアの模索や潜在的な顧客・パートナーとの関係構築を行いました。本プログラムを通じた議論の中で、ブータンでのヘルスケア、研究や産業振興を推進する上でのバイオバンクの意義や政府の支援・調整の役割、データとエビデンスに基づく政策と保健介入の重要性など、多くの学びが共有されました。またバイオバンクに蓄積される生体資料やゲノムデータを用いることで、製薬やワクチン開発への活用、腸内細菌叢の研究・活用など、日本をはじめとした国外企業との連携がさらに進むことも期待されています。今回の本邦視察および12月に終了する本調査の結果を踏まえて、今後JICAの協力プログラムのさらなる検討が進んでいく予定です。

(保健第3チーム 松尾)



東北メディカル・メガバンク機構で活発に意見交換をする参加者

<母子クラスター×課題別研修> 「妊産婦の健康改善」コースで色々やってみました!

母子保健クラスター戦略「母子手帳の活用を含む質の高い母子継続ケア強化」とアラインした課題別研修としてJICA東京所管の本研修を実施しました(委託先:ジョイセフ)。

◆ 研修期間 2024年7月7日~2024年8月27日(本邦:7月7日~27日、1カ月後のオンラインフォローアップ:2024年8月26、27日)

◆ 人数 12人(9カ国) ブルンジ、フィジー、リベリア、ネパール、パプアニューギニア、シエラレオネ、タンザニア、タイ、ウガンダ

【コース概要】

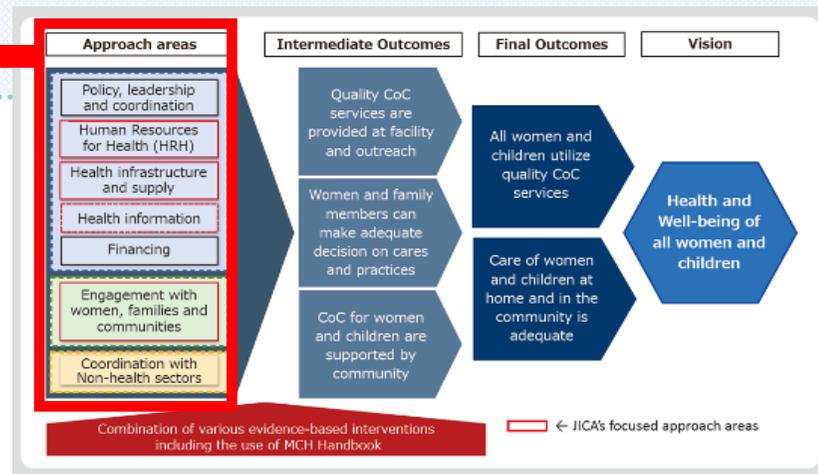
- ➡ プログラムを①日本の好事例(長野県須坂市他)②途上国における好事例・経験からの学び、③グローバルレベルの国際協力アクター(JICA、国際機関やNGO、過年度研修員)による事例共有で構成。
- ➡ 研修から得た学びに基づきそれぞれ自国の現場で実行可能性の高い活動計画MAP(Mini Action Plan)を立案。MAP立案においては、萩原、尾崎両国際協力専門員が全面的にアドバイスをを行った。

【工夫した点:母子クラスター戦略とMAPをどう連動させるか】

- ➡ MAPが母子クラスターのApproach Area 及び Intermediate/Final Outcomes とどう連動するのかをイメージできるよう、クラスター概念図は当初から提示した。MAP作成のプロセスにおいて随時研修員の目にふれるよう配慮した。MAPのテンプレートにクラスターとの連動性を整理するためのスライドを加え、自分のMAPが関連する箇所に矢印(→)をつける作業をした。しかし、数名の研修員は”Approach Areas”にある”Financing”を財源の確保と理解し(正しくは「医療保障」)、この整理と理解が不十分だった。

★各MAPが関連する母子クラスター戦略(Approach Areasの例)

Approach Areas	Country
Policy and leadership and coordination	Burundi, Fiji, Nepal, Sierra Leone, Tanzania, Thailand
Human Resources For Health (HRH)	Burundi, Fiji, Liberia, Sierra Leone
Health infrastructure and supply	Fiji
Health information	Fiji, Nepal, Sierra Leone, Tanzania, Thailand
(Health) Financing	Fiji (Papua New Guinea, Ugandaも記載があったが医療保障・経済的保護)でなないため除く)
Engagement with women, families and communities	Burundi, Liberia, Nepal, Papua New Guinea, Sierra Leone, Tanzania, Thailand, Uganda
Coordination with Non-Health sectors	Burundi, Nepal, Papua New Guinea, Uganda (保健セクター外のステークホルダーにコミュニティ関係者を含む整理)



長野県視察研修直後にMAPの原案を検討し、JICAの母子クラスター戦略のどの位置にあたるかを確認

- ➡ (母子クラスター上の人材育成数を意識して)MAP実施の最終段階でリーチする人数をカウントしてみた。

MAPの実施により貢献する総人数:12名分を足して30,000人となったが、最終的な数をどう検証するかは難問(いつまでもモニタリングできない)。

- A) 保健行政官、国際機関関係者等:200人
- B) 保健医療従事者:4,300人
- C) 他関係者(ステークホルダー):400人
- D) 女性(妊産婦、思春期女子):25,100人

【まとめ、課題】

本研修では委託先ジョイセフの卓越したファシリテーションのもと、母子の継続ケアの課題をコミュニティレベルにおけるケアの視点に位置づけて実施。母国で実行可能性の高いMAPの策定まで進めた。そのMAPは帰国後1カ月のフォローアップ・プログラムで各研修員から進捗のプレゼンがあり、それぞれの一步を踏み出していることが確認された。

母子クラスターをどう研修プログラムに入れ込むか、についても上述の試みを行ったが、理解不足の課題が残ったのも事実。今年度11月に実施予定の「母子継続ケアとUHC」コースにおいても引き続き試行錯誤を続けていきたい。

(保健第3チーム 坂元律子)

最近の保健グループス関連の動きを掲載します！

【技術協力】

- トルクメニスタン「心血管疾患診断能力開発プロジェクト」(2024年8月、RD締結)
[トルクメニスタン向け技術協力プロジェクト討議議事録の署名:同国中核病院における心血管疾患の対応能力を強化 | ニュース・広報 - JICA](#)
- ベトナム「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト」(2024年8月、RD締結)
[ベトナム向け技術協力プロジェクト討議議事録の署名:ベトナムにおけるウイルス性肝炎の予防・対策の強化に貢献 | ニュース・メディア - JICA](#)
- インドネシア「介護人材能力強化プロジェクト」(2024年8月、RD締結)
- ルワンダ「母子・地域保健サービス質向上プロジェクト」(2024年9月、専門家派遣開始)

【無償資金協力】

- キルギス「ビシュケク市内三次病院における医療機材整備計画」(2024年8月1日、GA締結)
[キルギス向け無償資金協力贈与契約の締結:医療機材の整備を通じた公的医療サービスの質の向上及び国際空港の整備を通じた地域の連結性強化や経済発展に貢献 | ニュース・広報 - JICA](#)
- 東ティモール民主共和国「ギド・ヴァラダレス国立病院整備計画」(2024年8月20日、GA締結)
[東ティモール向け無償資金協力贈与契約の締結:国内唯一の第三次病院整備により、保健医療体制の改善に貢献 | ニュース・メディア - JICA](#)

【国際会議など】

- スイス WHO主催 国際会議「Global consultation on the standardization of health facility data capture and reporting forms for maternal, newborn, and child health, and linkages to home-based records」(2024年9月)



編集後記

保健だより67号をご覧いただきありがとうございました。
本号では直近の保健ニュースを中心にご紹介をさせていただきました。皆様にご関心を持っていただけましたら幸いです。記事執筆にあたりご協力をいただいた皆様には編集チーム一同感謝申し上げます。

次号の保健だよりでは、11月に沖縄で開催された[グローバルヘルス合同大会](#)と長崎で開催された[The 8th Global Symposium on Health System Research 2024 \(HSR2024\)](#)について特集を予定しています。大変興味深いご発表が多くあったかと思います。
保健だより68号もどうぞお楽しみに！

(保健第4チーム 疋田)



保健だよりで取り上げてほしい特集テーマを募集します！
人間開発部 kadaishien-ningen@jica.go.jp
までお寄せください！
ご意見ご感想もお待ちしております！